審判員派遣報告書

派遣事業名	2022 年度　第 3 回全国 U15 バスケットボール選手権大会	派遣期日	令和 5 年 1 月 4 日～6 日
報告者	久保理恵	派遣先	東京都調布市

1　大会概要

大会名称	2022 年度　第 3 回全国 U15 バスケットボール選手権大会	大会期間	令和 5 年 1 月 4 日～6 日
大会概要	各県を勝ち抜いたチームと協会推薦を受けたチームの男女各 52 チームの トーナメント方式		

2　担当試合　※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和 5 年 1 月 4 日	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
審判クルー	CC: 杉浦元一（東京）　U1:久保理恵（香川）　U2:上阪紘也（東京）		
担当試合	MINOWA CLUB U15（長野）　VS　高川学園中学校（山口）		
試合内容	両チームとも序盤から積極的に攻めるも、シュートが決まらずロースコアの展開となった。後半立て続けに３P シュートが決まった高川学園中が 44－31 で勝利した。		

日程	令和 5 年 1 月 5 日	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
審判クルー	CC: 大津麻菜美（群馬）　U1:久保理恵（香川）　U2:雨宮恵（山梨）		
担当試合	ボンズ茨城（茨城）　VS　KAISEIKAN クラブ（静岡）		
試合内容	DF、リバウンド、ルーズボールを全員で頑張るチーム同士のタフな戦いだった。４Q 残り 1 分半で KAISEIKAN クラブが同点に追いつくものの、ファウルゲームを制したボンズ茨城が 53－47 で勝利した。		

日程	令和 5 年 1 月 6 日	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
審判クルー	CC: 折戸雄（三重）　U1:梅田香（福井）　U2:久保理恵（香川）		
担当試合	HIGHTIME（島根）　VS　八王子市立第一中学校（東京）		
試合内容	前半は八王子第一が鋭いドライブで攻め込み、優位にゲームを進めていた。しかし、後半に入りシュートが落ち始めたところを、リバウンドからコツコツ得点に繋げた HIGH TIME が 53－50 で競り勝った。		

３　大会（研修会）を通して　《　学んだこと　感じたこと　県内審判に伝えたいこと　等　》

●アクティブマインドセット

ゲーム中は色々なことが起こる。タフなゲームになればなるほど、常に先へ先へと意識を持っていくことの大切さを実感した。様々なプレッシャーの中で自分を崩さないために、メンタルのリセット方法を作っておき、どんな時もベーシックに戻ることを普段から実践する。

一方で、全国大会ならではの「初対面の方とクルーになること」の楽しさを感じた。クルーのローテーションの傾向を掴み、メカニクスを対応させたり、ゲーム中のコミュニケーションでタイミングをすり合わせたりして、クルーワークを生み出すことができた。

ベーシックメカニクスと約束事を徹底した上で、コート上の自分のプライマリで起こっていることを積極的に判定できるようになることが、インターハイ同様に全中にも不可欠である。１つ１つ具体的な課題に落とし込んで、研修生全員で取り組んでいきたい。

●プレゼンテーション

１回戦でトラベリングをコールした。ゲームを見てくださっていた加藤暁生さんから、ジャスチャーを行うときに、選手の方を見て目を合わせることで、よりメッセージ性のあるコールになるとアドバイスをいただいた。レフェリーの判定にアジャストしてもらうために、何をコールするかはもちろん大切であるが、見せ方、伝え方も重要になると改めて感じた場面だった。

インターハイでもそうであったが、全国大会を吹く審判員の方々は、レフェリーウェアの着こなし、髪型、走り方、立ち方、男女問わず、誰を見ても凛としていて格好良かった。映像の配信が当たり前だからこそ、自然体を大切にしながら、自分がどう見られているかはさらに追求していきたいと思った。

●マンツーマンコミッショナーや TO との連携

マンツーマンディフェンスの基準規則が改定され、2023 年度から施行されることになった。今大会では「赤旗１回目のゲーム再開方法のみ適応される」ので、PGC では毎試合ルールと処置の確認を行った。マンツーマンルールに関しては、不安に感じている県内レフェリーも多いと思うので、率先して内容の理解に努め、広めていきたい。

今大会は、前の試合の勝ったチームが次のゲームの TO を行うということで、試合前に TO ミーティングを行うことは時間的に厳しかった。それでも、選手たちは自分がプレーするのと同じように、一生懸命に取り組んでくれた。機材の扱いに不慣れな分、ゲームの序盤でしっかりと目を配り、修正や声かけなどを適切に行うことで大きなミスは防ぐことができる。それでいて、自分自身が情報過多にならないよう、普段から訂正の処置には慣れておくことが大切だと感じた。どんなゲームでも、クロック管理を習慣にして、いざという時に冷静に対処できるようにすることが課題であると感じた。

４　その他

３回目の開催となる Jr WINTER CUP は、男子は例年以上に B ユースやクラブチームの出場が多く、女子は、全中常連の強豪校が、中学校としてではなくクラブチームとして多く出場している、という印象でした。お正月早々、東京都の U15 連盟の方々を中心に大規模な会場の準備を、また 5 日間に渡り大会運営をしてくださっていることには、感謝しかありません。香川県を代表して派遣していただき、自分自身がこのような大会に関わることができたことに有り難さと幸せを感じました。

大会期間中、同じく香川県から来ていたチーム関係者、マンツーマンコミッショナーなどの方と試合会場で話す機会もありました。役割や立場は違えど、時間を割き、周囲の理解と支援を得て、大好きなバスケットボールに尽力しているなかまです。互いに協力し合い、一丸となって香川全中を成功させたいという思いが、これまで以上に強くなりました。

今回の派遣に際して、ご支援いただいた香川県バスケットボール協会の皆様に、心より感謝申し上げます。今後ともご指導よろしくお願い致します。